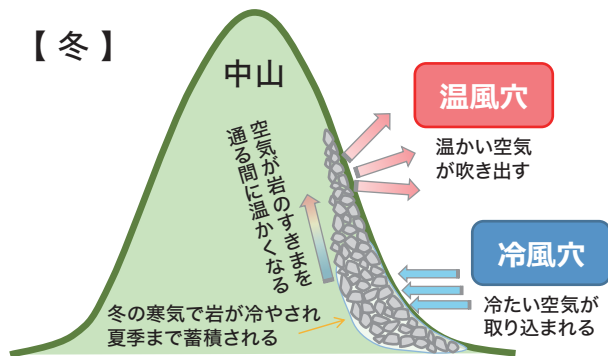


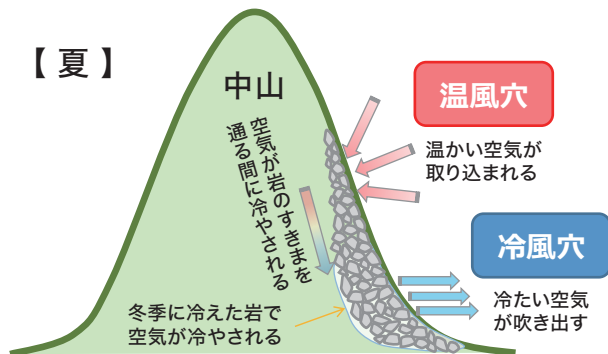
風穴現象のしくみ

冬の間に冷風穴から空気が取り込まれ、寒気で岩が冷やされることにより氷ができて、岩の冷たさは夏まで蓄積されます。冬とは逆に、夏には温風穴から空気が取り込まれ、冷たい岩の隙間を通る間に冷やされ、冷風穴から冷たい空気が出てきます。

【冬】



【夏】



冷風体感施設

風穴を利用した自然の冷蔵庫

ここは、風穴を利用した貯蔵庫(自然の冷蔵庫)の跡で、昭和初期頃まで住民や流通業者が野菜などの保管に利用していました。当時の状況を実感できるように、冷風体感施設として整備しています。

- 夏にトマトなどの野菜やマクワウリ(メロンの一種)などの果物を保管
- 穀物や野菜の種子を保管
- カイコの卵を保管(通年にわたり生糸を生産するために養蚕(ようさん)に利用)



※冷風を感じられますか?

夏には周りの気温との差が大きいため、冷たく湿気が多い、風穴地の特殊な環境を体感できます。

アクセスマップ



国指定天然記念物
中山風穴地
特殊植物群落

中山風穴
入口標柱

周辺の文化財 国選定重要伝統的建造物群保存地区「大内宿」から車で…16分
国指定天然記念物「塔のへつり」から車で ……10分

車で訪問の場合は湯野上温泉街方面から入場ください。(幅員が狭いため大型バスの進入はできません。)

保存・活用について

再整備について

※文化庁の補助事業(国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 中山風穴地特殊植物群落 歴史生き生き! 史跡等総合活用整備事業)により平成29年度から令和3年度の5年間に説明板・階段・ロープ柵・案内板等を再整備しました。より安全に見学しやすくなりましたので、ごゆっくりご散策ください。



保護について

- 天然記念物「中山風穴地特殊植物群落」は、風穴現象とそれに伴う区域に発達する特殊な植物群落(指定基準(三)特殊岩石地植物群落)のことで、6カ所の指定地があります。わが国の大切な文化財です。
- これを保護するにあたり、以下の事柄についてご協力下さい。
- 指定地内に立ち入らないでください。
 - 指定地内の植物や岩石類を荒らしたり、持ち帰らないでください。
 - 巡視中の監視員の注意を守り、その指示に従ってください。
- 天然記念物に影響を与える行為は、文化財保護法で規制されています。



下郷町教育委員会
〒969-5345 下郷町大字塩生字大石1000番地
電話:0241-69-1168
<https://www.town.shimogo.fukushima.jp/>



国指定天然記念物

な が や ま ふ う け つ ち

中山風穴地 特殊植物群落



ここ中山(標高490~570m)には、夏の期間、冷気が溜まる風穴地(指定地)が広がっています。指定地では、岩石が堆積する斜面下部から冷気が吹き出る「風穴現象」が見られます。その周辺には中山より北方で、より寒冷な場所を好む植物(ここでは特殊植物と呼びます)が生育し、風穴地特殊植物群落が形成されています。

(昭和39年6月27日指定、平成18年3月31日追加指定・一部解除)

夏に冷気が吹き出る仕組みは?

- ▶第2指定地を調べてみよう!
- ▶第3指定地で冷気を体験してみよう!

特殊植物とはどんな植物?

- ▶指定地と周辺の植物の違いを調べてみよう!

風穴地と私たちの暮らしの関わりは?

- ▶冷風体感施設に行ってみよう!

福島県南会津郡下郷町

中山風穴の植物

風穴地の冷涼な環境に適応して生育する特殊植物や北方植物が見られます。



オオタカネバラ
(5月中旬～6月下旬)



アイズシモツケ
(5月上旬～6月中旬)



ベニバナイチヤクソウ
(5月中旬～7月中旬)



キバナイカリソウ
(4月中旬～6月下旬)



ヤナギラン
(6月中旬～8月中旬)



ウサギシダ



タチハイゴケ

北方植物とは？

福島県あたりでは標高1500m以上の高地で育つ植物で、北方由来の植物が多く、氷期の「生き残り」(遺存種)ともいわれています。

指定地の特徴

第1指定地 「コケ植物が豊富な」 (標高520～530m,面積286.70㎡)

指定地の中央部にイワダレゴケ、タチハイゴケなどのコケの仲間が多く見られます。また、風穴地で多く見られるウサギシダなどの寒冷な場所を好む植物(特殊植物)や北方植物が生育しています。

第2指定地 「すり鉢状の地形の底に冷気がたまる」 (標高506～520m,面積1714.91㎡)

深さ10mにおよぶすり鉢状の地形のため、底に冷気が溜まり、冷却効果が一段と強い風穴地です。岩の隙間から真夏でも5～10℃の冷気が吹き出していて、すり鉢の底にベニバナイチヤクソウやヤナギランの群生が見られます。

第3指定地 「風穴が多い」 (標高515～543m,面積1719.57㎡)

岩石が風化して崩れ、積み重なった岩塊の隙間から、夏でも多湿な7～8℃の冷風が吹き出しています。そのため、東北地方では亜高山帯に生育するオオタカネバラ、崖地に生育するアイズシモツケなどが生育しています。歩道の近くで見られます。

第4指定地 「花の咲き始めが遅い」 (標高490～512m,面積2198.14㎡)

沢状の地形で多湿の冷気が溜まりやすいため、同じ植物であっても花の咲き始めが他の指定地よりも遅い様子がわかります。

特殊植物では、アイズシモツケやベニバナイチヤクソウのほか、カワラマツバ、ウスノギ、ミヤマハタザオなど、湿度が高いところにはダチュウゴケやタチハイゴケが見られます。

第5指定地 「中山風穴地の成り立ちを示す」 (標高508～525m,面積265.50㎡)

中山の山麓では、柱状節理が風化して崩れた岩塊が積み重なっています。夏の冷風はこの岩塊の隙間から吹き出します。ここは、崩れる前の柱状節理が露出していることが特徴で、中山風穴地の成り立ちを目にすることができます。



第6指定地 「最も大規模な特殊植物群落」 (標高535～570m,面積2769.45㎡)

南東向きの急斜面にできた大きな崖錐(がいすい)で、指定地下部に風穴が集中し、夏には0℃に近い冷風が吹き出しています。オオタカネバラやヤナギランが群生し、ここが冷涼な環境に依存して成立した特殊植物群落であることがわかります。



中山(金塚山)

中山風穴地